

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(1)-ア	地域を知り、学びを深める環境づくり	施策	①多様な学習機会の創出及び提供
			施策の小項目名	〇多様な学習活動の充実
主な取組	青少年交流体験事業		対応する成果指標	公民館等の利用者延べ人数
施策の方向	・県民が地域の自然環境、歴史、文化等に親しみ、本県の魅力に対する認識を深め、その地域における課題等について主体的に学べるよう支援するため、学校・地域における自然体験学習や読書活動等の多様な学習活動の充実、社会教育指導者等の資質向上等に取り組みます。			

1 取組の概要 (Plan)

主な取組(アクティビティ)	実施主体	年度別計画			
		活動指標(アウトプット)			
		R4	R5	R6	
県内の青少年を他県に派遣し、交歓交流・学習の機会を設けることにより、青少年の健全育成を図る。また、他県の青少年と県内小中学生との交流の機会を設け、児童相互の友情を育む。	県関係団体	青少年交流体験事業の実施			
		派遣児童・生徒数(累計)			
		160人	160人(320人)	160人(480人)	
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部青少年・子ども家庭課		【 098-866-2174 】	関連URL	—

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況				(単位：千円)		
予算事業名 青少年交流体験事業				予算事業名 青少年交流体験事業		
主な財源	実施方法	R3年度 決算額	R4年度 決算見込額	R5年度		当初予算額
		県単等	補助	715	3,248	
令和4年度活動内容				令和5年度活動計画		
令和4年7月に九州へ小中高生を121人、12月に兵庫県へ小中学生39人を派遣し、交歓交流・学習の機会を設ける。				令和5年7月に九州へ小中高生を180人、12月に兵庫県へ小中学生90人を派遣し、交歓交流・学習の機会を設ける。		

活動指標名	派遣児童・生徒数 (累計)		R4年度			進捗状況	活動概要
	R2年度	R3年度	実績値 (A)	目標値 (B)	達成割合 A/B		
実績値	7人	35人	38人	160人	23.8%	大幅遅れ	令和4年7月、九州への派遣を中止。 12月は、小中学生を兵庫県へ38人派遣。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

160人の児童を派遣予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から7月の九州派遣を中止したため、進捗状況は大幅遅れとなった。しかし12月の兵庫県派遣は実施できた。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和4年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じた実施に係る判断基準及び実施の方法をあらかじめ定め、広報等に要する時間を確保する。 県の広報誌等を活用するなど、引き続き周知広報に取り組み、事業の認知度向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の流行の状況を注視しながら事業開催可否を直前まで検討していたことから、事業の周知広報等については十分な対応をすることが困難であった。

様式1 (主な取組)

3 取組の検証 (Check)		4 取組の改善案 (Action)	
類型	内容	類型	内容
① 県の制度、執行体制(内部要因)	・新型コロナウイルス感染症への対応について、流行の段階別に対応方針を検討し、事業実施の方法を早期に決定する必要がある。	① 執行体制の改善	・新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが、引き続き、交流先も含め流行状況を注視し、事業実施の可否及びその実施方法を検討する。
① 県の制度、執行体制(内部要因)	・決定した事業の実施方法について、早期に周知し、幅広い年齢層の児童・生徒に研修を知ってもらう必要がある。	① 執行体制の改善	・県の広報誌等を活用するなど、引き続き周知広報に取り組み、事業の認知度向上を図る。